

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日: 2013年 3月 26日

<p>テーマ名</p>	<p>クラウドサービスを利用するための考察</p>	
<p>届出組織等名称</p>	<p>企業内ITコーディネータ・ITガバナンス研究会</p>	
<p>成果物公開URL</p>		
	<p>(代表者氏名) 古川 正紀 電話番号: 03-6820-0777 e-mail: masaki_furukawa@e-it.co.jp</p>	<p>(担当者氏名) 同左 電話番号: e-mail:</p>
<p>研究・調査 成果概要</p>	<p>クラウドコンピューティングが広く知れ渡り、特別な仕組みという認識ではなく、お金の保管に銀行を利用するように、当たり前情報システムやIT資源を利用できることが理解されつつあり、情報利用形態の大きなパラダイムシフトが進みつつある。大いに歓迎すべきトレンドであると評価する。特に企業体力の弱い中小企業にとっては、経営資源の効率的運用を考える上で大きな効果が期待される。一方、銀行に例えるなら、現金の強奪、あるいはお金を奪い取ることを目的とした詐欺的な行為などは後を絶たない。対策を練っても、手を変え品を変え管理の弱い部分を狙って、新たなリスクが発生し続けている。情報システムにも同様なことが言え、各企業・官公庁もインシデント発生に伴う対策に追われるのが現状である。経営の効率化・体質強化が期待されるIT技術である反面、情報リスクに伴う経営リスクに繋がる危険性をはらんでいる。</p> <p>本ITガバナンス研究会もクラウドコンピューティングの利用研究に関しては3年目を迎え、以下の点を考慮し本年度の研究テーマを探索した。</p> <p>① 初年度はクラウドコンピューティングの実態とそれを利用する側の考慮点を踏まえながら、導入を考えている利用者に対し、考慮すべき点を中心に研究結果を述べた。</p> <p>② 2年目は、前年度の利用点を踏まえ、その前提となる経営者への答申の仕方や、考慮すべき経営上及びIT利用上の周辺の知識について研究結果を言及した。本年度は、上記の内容を踏まえた上で、クラウドコンピューティングを利用するにあたって想定されるビジネス上のリスクを、情報リスクに伴うリスクを防止するという視点に立って研究を進める事とした。検討資料として経済産業省が取りまとめた「クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン」を考慮しながら、各研究員の得意とする視点に基づいて、クラウドサービスの活用を有効ならしめるための情報セキュリティ対策について研究結果を述べる事とする。</p>	
<p>成果物</p>	<p>メンバー9名がそれぞれ自主的な活動で学習し、毎月の定例研究会にて輪番制で研究成果の発表をしあい、且つ結果を論文に纏めることで研究会を進めたが、最終的には下記7メンバーが執筆した論文集として、「クラウドサービスを利用するための考察」を脱稿した。</p> <p>執筆者は以下の通り。</p> <p>千枝 和行 (0029302004C) 坂本 徳明 (0064952006C) 牧田 一雄 (0052712005C) 古川 正紀 (0005462001C) 山崎 直和 (0035252003C) 久住 昭之 (0035712003C) 瀬戸 昭彦 (0065252006C)</p>	

* 青字は事務局で記入します。

<p>事務局受付日</p>	<p>2013/3/26</p>
<p>案件番号</p>	<p>S12007</p>